

たのしい

2018.3.15

サイエンス通信 (41)

サクラとバラの共通点

3月も後半に差し掛かり、そろそろ多くの人が好きなあの季節がやってきます。そう、桜の季節です。今年の大阪の開花予想は3月22～25日ごろ。およそ1週間で満開を迎えますから、4月のはじめには美しい桜が見られそうです。

ところで、桜といえば学校や公園などにある木にこのようなプレートがついているのを見たことはありませんか？

ソメイヨシノ

エドヒガンとオオシマザクラの雑種といわれている。明治以後、東京から全国に広まった。

(バラ科)

このプレートは樹名板などと呼ばれるもので、植物の種名や簡単な説明などが書かれています。さて、このプレートをよく見てみましょう。すると、少し不思議なことに気付きます。

プレートの右下に、**バラ科**と書かれていますね。これは桜の品種の一つであるソメイヨシノの科名を表しています。科、というのは生物を分類するためのグループにあたるもので、バラ科、ということはすなわちソメイヨシノがバラと同じグループに所属していることを表しています。サクラとバラが同じグループ……何とも納得しがたい事実です。その花を見比べてみても、全く違った見目をしています(図1)。



図1 一般的にみられるサクラとバラの写真

しかし、ソメイヨシノがバラ科というのは間違いのない事実です。実はこの不思議な分類は、私たちのよく見ているバラがどのように誕生したかを考えると納得できます。実は図1のように花弁がたくさん重なったバラは、園芸用に人工的に品種改良されたものなのです。品種改良される前の種のひとつがこちら(図2)。



図2 ノイバラの写真

日本ではノイバラと呼ばれている種です。元になった種は他にもたくさんありますが、それらもこのような外見のものが多いです。5枚の花弁、たくさんのおしべ……サクラの特徴とも一致していますね。この写真を見ると、サクラがバラ科であるということにも納得です。

ちなみに、そのほかにもモモ、イチゴ、リンゴ、アーモンドなど、私たちがよく口にするものにもバラ科の植物はたくさんあります。くだもの自体は全く違う味がしますが……これらについても花を調べてみると納得がいくでしょう。

見た目の異なるものでも、同じグループの仲間、ということはよくあります。何事も、外見に惑わされないように注意していきたいですね。(早)